

⑧おおさかタイムライン防災プロジェクト

受賞機関 大阪府 都市整備部 河川室

キーワード タイムライン、多機関連携、広域、市町村、地域、支援ツール

全建賞審査委員会の評価ポイント

洪水、土砂災害、高潮を対象に、タイムラインを大阪府全域に展開する取組。広域・市町村・地域の3つのタイムラインの導入による防災行動の迅速化や円滑化に貢献した点や、本成果を踏まえて、全国において分野を横断した「事前防災行動計画」が策定されることにより、最善の防災行動の検討が期待される点が評価された。

1. はじめに

大阪府では、「人命を守ることを最優先とする」基本理念のもと、災害リスクを府民と共有しながら、「逃げる」「凌ぐ」「防ぐ」各施策を効率的・効果的に組み合わせるトータルマネジメントにより治水・土砂対策に取り組んでいる。その内の「逃げる」施策では、台風等に起因する洪水や土砂災害、高潮など事前予測が実施できる進行型の災害を対象にしたタイムラインを府域全域に展開する『おおさかタイムライン防災プロジェクト』（以下、「プロジェクト」）を進めている。

2. 事業の概要

プロジェクトでは、実施主体に応じてタイムラインを「広域」「市町村」「地域（コミュニティ）」の3つに分類している。



おおさかタイムライン防災プロジェクト

平成29年度からリーディングプロジェクトである寝屋川流域大規模水害タイムラインを皮切りにタイムライン策定に着手し、令和3年度を目標に府内全市町村において、「洪水」「土砂」「高潮」のいずれかを対象としたタイムライン策定を目指している。

令和3年3月末時点までに、広域タイムライン（多機

関連携）が寝屋川流域をはじめ4つの流域で策定し、運用を開始している。また、市町村タイムラインは、26市町村で策定済みで、4市で策定中である。さらに、取り組みの普及が一層拡大するように、タイムラインの作り方を紹介する手引きや動画など様々な支援ツールをホームページで提供している。



3. 事業の成果

平成30年8月に策定した寝屋川流域大規模水害タイムラインでは、その年の台風第21号などの台風接近時においてタイムラインの運用を行い、次の効果がみられた。

まず、流域内自治体では、ホットラインなども活用し、気象警報や土砂災害警戒情報が発表されるより前に、避難勧告の発令など府民に避難行動を促す情報の発信・伝達が行われた。

次に、鉄道事業者では、台風の影響による利用者の混乱を避けるため、「計画運休の措置」が報道機関を通じて広報周知されたことで、府民の警戒意識が高まり、自主避難など早めの防災行動を促すことに繋がった。

加えて、タイムラインにより防災行動が時系列に整理されたことで災害対応時の「抜け」「漏れ」「落ち」を防ぎ、災害対応後の「ふりかえり（検証）」を経て、課題抽出や改善が容易となった。

4. おわりに

タイムラインは策定して終わりではなく、平常時の訓練や実際の水害対応などの実践と、災害対応後の検証を踏まえた改善を繰り返していくことが重要である。このようなPDCAサイクルによりタイムラインをスパイラルアップし、最善の防災行動に繋げていきたい。